

平成26年度第2回流山市史編さん審議会会議録

1 日時 平成27年1月31日(土)

午後1時30分から午後3時50分まで

2 場所 流山市立中央図書館会議室

3 出席者等

(審議会委員)

相原正義委員 青柳孝司委員 小川浩委員 小疇尚委員

下津谷達男委員 清藤一順委員 中村智委員 村田一二委員

山田友治委員

欠席：堀部昭夫委員

(事務局)

直井生涯学習部長 小川図書・博物館長 須田図書・博物館次長

川根主任学芸員

廣瀬臨時職員 笹川臨時職員 橋本臨時職員

欠席：後田教育長 小栗図書・博物館次長 金子主任学芸員

(傍聴者)

なし

4 議題

(1)「第1章 掘り出された大昔の暮らし」の原稿について

(2)「第2章 古墳と古代の村」の原稿について

(須田次長)

本日は大変お忙しい中、お集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。

ただいまから平成26年度第2回流山市史編さん審議会を開催いたします。本日、司会進行をさせていただきます、図書・博物館次長の須田でございます。よろしく願いいたします。

ただいまから、平成26年度第2回流山市史編さん審議会を開催いたします。会議の開催に先立ちまして、本日配布している資料を確認させ

ていただきます。

まず、会議次第及び委員名簿、平成25年度博物館年報、企画展展示図録『通運丸で結ばれた関宿・野田・流山』を、お手元に配布させていただいております。また、先に『ふるさと流山のあゆみ』「第1章掘り出された大昔の暮らし」「第2章古墳と古代の村」の原稿を郵送させていただきました。お持ちでない方はいらっしゃいますでしょうか。

それでは、次第に添って進行させていただきます。流山市教育委員会生涯学習部直井部長からごあいさつを申し上げます。部長よろしく願いいたします。

(部長挨拶)

今年度最初の審議会です。今年は一茶双樹記念館が開館して20周年、通運丸・舟運等でも節目の年を迎えました。利根運河125周年、流山橋50年、つくばエクスプレス10年、流鉄も開通して100年となります。また、近年ではみりん等ツーリズム関係で大変に盛り上がり、流山に関心のなかった人々が目を向けてくださるようになりました。

是非、読んで楽しい市史が出版できますよう委員の皆様には忌憚のないご指摘をいただきたく、よろしく願いいたします。

(須田次長)

ありがとうございました。続きまして、会長からごあいさつを頂戴いたします。小川会長、よろしく願いいたします。

(小川会長)

昨日の雪に続き、今日は風が強い中お集まりいただきありがとうございます。

今日は最後の読み合わせです。今年度の予算で出版ということで、ぎりぎりの仕事です。委員の先生方の忌憚のない意見を取り入れていきますのでよろしくお願いいたします。

(須田次長)

ありがとうございました。「流山市史編さん審議会条例」第6条第1項の規程によりまして、会議の議長は会長に務めていただく事となっておりますので、ここからは新会長に進行をお願いいたします。

(小川会長)

議事進行に先立ち、事務局に出席委員数の報告を求めます。

(小川館長)

本日の会議につきましては、委員10名のところ9名のご出席を頂いておりますので、「流山市史編さん審議会条例」第6条第2項により会議が成立している事を申し添えます。

(小川会長)

会議成立ということですので、次第により議事を進行させていただきます。ご協力をよろしく申し上げます。

議題(1)「第1章 掘り出された大昔の暮らし」の原稿について、事務局から説明を願います。

(川根主任学芸員)

それでは「第1章 掘り出された大昔の暮らし」の原稿について、ご説明申し上げます。

まず、この章のタイトルの変更についてでございます。従前は「掘り出された流山」でございましたが、「掘り出された大昔の暮らし」に改めております。第1章は、旧石器時代から縄文時代・弥生時代までを対象としております。

今回お示しした原稿は第1章の「2 狩猟・採集の時代」「3 米づくりのはじまり」の2つの節でございます。

執筆者は、2節の「縄文時代の大集落—中野久木谷頭遺跡」が私川根正教、「ヒスイ加工のムラ」及び「コラム1 貝塚からみる縄文人の食べ物」が博物館主任学芸員の小川勝和、3節の「米づくりのはじまり」及び「コラム2 堀で囲まれた集落」が博物館主任学芸員の北澤滋でございます。

内容でございますが、「縄文時代の大集落」では縄文時代の概要を簡単

にふれた後、縄文時代中期の集落である中野久木谷頭遺跡を取り上げ、縄文時代の集落構造や遺物について記述したものです。

「ヒスイ加工のムラ」では馬蹄形貝塚であります三輪野山貝塚を取り上げ、5つの時期に区分して集落の変遷について記述したものです。特に、Ⅲ期のヒスイの玉づくり関連遺物については詳述しております。

3節「米づくりのはじまり」では加村台遺跡を取り上げ、集落や遺構・遺物について記述したものです。

ご審議をよろしくお願いいたします。

(小川会長)

只今、事務局から説明のありました「第1章 掘り出された大昔のくらし」の原稿について、ご意見のある方はいらっしゃいますか。

《以下、指摘事項箇条書き》

1 ローム層の中から

○3P 上段 4 行目 数十万年→十数万年（小疇）

○3P 下段 14 行目 地表下約二メートル→厚みの表現になってない（中村）

2 狩猟・採集の時代

○12P 上段 4 行目 信州系黒曜石を用いた石刃製のナイフ形石器→よくわからない、ほかの表現にしたらい（下津谷）

○あまり難しい表現が出てくると読者は読むのが嫌になる（相原）

縄文時代の大集落—中野久木谷頭遺跡—

○遺跡と貝塚の違いをどのように解釈すればよいのか。遺跡にも貝塚はある（村田）←貝塚も伴う、などと入れます（川根）

○13P 上段 1 行目 140 か所ほど確認されています→140 もあるなら中野久木谷頭遺跡のほかに 2～3 あげたほうがよい（青柳）

○13P 上段 6 行目 堅果類→表現が固すぎる（小川）

○13P 上段 13 行目 四千五百年～四千年前頃→四千五百年前後に（清藤）

○中野久木谷頭遺跡と三輪野山貝塚の年代の整合を図ること、県史通史編に統一（清藤）

○14P 上段 2 行目 袋状土坑→図があったほうが良い（村田）

○14P 上段 図 7 今のどこら辺に相当する地図なのか（中村）

- 15P 上段最終行 ベンガラ漆→赤ベンガラ漆に（清藤）
- 15P 下段 8 行目 植物質食料→ヒエ等具体的に
- 17P 上段 2 行目 チャートとは何か分からない（中村）
- 17P 下段 5 行目 廃棄物の表現より多様な遺物としたほうがよい（清藤）
- 18P 上段 1 行目 拠点集落→大規模集落（清藤）
- 18P 上段 まとめ、やや言い過ぎ、書き換えた方がよい（清藤）

ヒスイ加工のムラ—三輪野山貝塚—

- 18P 上段 15 行目 拠点集落→大規模集落（清藤）
- 18P 下段図 9 図は全て小さい、凡例は見えないので不要
- 19P 上段 5 行目 眼前の江戸川は表現がおかしい（小疇・下津谷・清藤）→現在の江戸川
- 23P 上段 6 行目 講じて→不要（清藤）
- 23P 上段 8 行目 終焉します→おわります（清藤）
- 23P 下段 4 行目 産地同定分析→同定分析不要（山田）
- 24P 写真 14 スケールを勘案した作図をされたい（小疇）
- 25P 下段 10 行目 流通していた→とったのか、もってきたのか（清藤）
- 26P 上段 16 行目 食用ではなく、毛皮の獲得等が考えられる→本当か（清藤）
- 26P 上段 19 行目 植物質食料は貝塚からの出土ではないはず、タイトルの再考を（清藤）

3 米づくりのはじまり

- 27P 下段 7 行目 宮ノ台式とは何か（青柳）
- 27P 下段 8 行目 方形周溝墓の説明が必要では（村田）
- 27P 下段 16 行目 確認されていませんとは何が確認されていないのか（小疇）
- 28P 上段 5 行目 飛地山の範囲はどこまでか（青柳）
- 28P 図 14 図 14 と 15 を統合した方がよい（村田）
- 29P 上段 2 行目 Y2 号とは何処を示しているのか（山田）
- 29P 下段 2 行目 D 地点とは図の何処か（山田）
- 29P 下段 7 行目 大発見とは何故か（山田）
- 30P 下段 2 行目 水田耕作に適した地ではなかった、とは言い切れない、技術的に耕作できなかつたのでは（相原）

(小川会長)

他にご意見のある方はいらっしゃいますか。無いようですので、議題(4)「第2章 古墳と古代の村」の原稿について、事務局から説明を願います。

(川根主任学芸員)

それでは「第2章 古墳と古代の村」の原稿について、ご説明申し上げます。この章は「1 古墳と古墳を造った人のムラ」「2 『かつしかのこおり』の村」の2つの節から構成されています。この第2章は、古墳時代から奈良・平安時代までを対象としております。

本日御審議いただきますのは、このうちの「1 古墳と古墳を造った人のムラ」「2 『かつしかのこおり』の村」のうちの「鉄を造った技術」の原稿でございます。

執筆者は「古墳と古墳を造った人のムラ」が博物館主査学芸員の増崎勝仁、「鉄を造った技術」が図書・博物館次長の小栗信一郎でございます。

内容でございますが、「伝わった古墳文化」では市内最古の古墳であります三輪野山向原古墳を取り上げ、市内の古墳文化の伝播経路について記述したものでございます。「ムラびとの暮らし」では集落遺跡の変遷と、住居や遺物について記述したものでございます。

「鉄を造った技術」では博物館に展示してある東深井中ノ坪遺跡と富士見台第Ⅱ遺跡の製鉄炉を取り上げ、製鉄の技術や流山における製鉄遺跡の位置づけなどについて記述したものです。

ご審議をよろしくお願いいたします。

(小川会長)

只今、事務局から説明のありました「第2章 古墳と古代の村」の原稿について、ご意見のある方はいらっしゃいますか。

《以下、指摘事項箇条書き》

1 古墳と古墳を造った人のムラ

○35P 上段 1 行目 三輪野山向原古墳→この古墳と東深井遺跡は同じころと思うが、なぜ古墳と方形周溝墓に分けられるのか(青柳) ←古墳と

方形周溝墓は時期的に並列することもあるが、基本的には時期差があり、規模や主体部のあり方、出土遺物などにより判断する（下津谷）

○36P 下段の地図と 37P 下段の地図の中のタイトルが入れ違っている（相原）

○36P 上段 13 行目 手下水（てがみず）→てがのみず、と読んだほうが良い（相原）

○37P 上段 2 行目 四世紀→三世紀後半と説明版にはある、38P 下段の図と合わない（相原）←きちんと確認し修正します（川根）

○39P 上段 7 行目 米作りに適した利用可能な低湿地→谷戸のことならばはっきり言ったほうがよい（小疇）

○39P 上段 10 行目 灌漑というよりむしろ排水→（小疇）

○古墳が移動してきたという話はおもしろいがこの説を定着させてよいものか（相原）

○43P～45P コラムにしては長すぎるのでは（清藤）

○45P 上段 2 行目 七号墳から魚形埴輪、十七号墳から鶏形埴輪→七号からも鶏形埴輪は出ている（下津谷）

鉄を造った技術—古代の製鉄炉—

○54P 下段 7 行目から 55P 上段 2 行目まで削除してよいのでは（村田）

○鉄の原料はどこから来たのか。砂鉄を利用したと考えてよいのか（小疇）←実際のところ判らない（小川）

○55P 下段 8 行目 「たたら」関係の漢字にルビを（清藤）

○56P 上段 9 行目 古墳時代後期→鉄鋌は五世紀に出ているので古墳時代中期後半にしたほうがよい（下津谷）

○56P 写真 22 タイトルの「鉄器」→アバウトすぎるので工夫を（村田）

○56P 下段 11、12 行目 中国地方といえば砂鉄といわれているが（相原）

○56P 下段 19 行目 中央政権の東北支配（蝦夷征伐）→表現に工夫を、支配・征伐は問題がある（相原）←東北経営にしたら（小川）

○相馬市と無理に結びつけている感がある（村田）

○58P 下段 4、5 行目 集落が営まれた形跡が無いところを…備えていますが→さらっと書いたほうがよい（相原）

○59P 上段 10 行目 「取り上げ保存」という用語はあるか→取り上げられ保存された（清藤）

○62P 上段 現在の鉄生産は8世紀からいきなり跳んだ、流山の鉄生産をいうならば、日本鑄鋼にもふれられたい(小疇)

○62P 下段 8行目 「博物館に保存展示」は3回でてくる。くどすぎるので1か所に(山田)

(小川会長)

他にご意見のある方はいらっしゃいますか。無いようですので、その他について何かございますか。

(小川館長)

今回『ふるさと流山のあゆみ』の原稿についてご審議いただきましたが、これで全ての原稿について、ご審議を頂戴したことになるわけでございます。

当初の計画では、この後に市史編集委員会を開催して通読いただき、読みやすさやルビ等についてご指導をいただくことで考えておりましたが、時間的な制約がありまして、市史編集委員会は開催せず、事務局職員が責任をもって原稿を完成させるということでご承諾いただきたいと思います。

なお、小川会長には編集が終わった段階で通読いただきたく考えております。

(小川会長)

他に無いようですので、よろしければ、これにて平成26年度第2回流山市史編さん審議会を終了といたします。

(須田次長)

皆様長時間のご審議お疲れ様でした。ありがとうございました。

以上をもちまして、平成26年度第2回流山市史編さん審議会を閉会させていただきます。

以上

(閉会 午後3時50分)